

『学生の学習意欲が向上した』『中退率が激減した』『教員と学生とのコミュニケーションが深まった』など、導入当初から大学生の中退や留年率の減少、学習意欲の向上などが目に見えるように数値化され、その高い効果も立証済みだ。正田氏はedieaが採用される理由について、ハウインターナショナルが九州工業大学においてのインターナショナルシップ支援をきっかけとして、親密になった教職員や学生たちとの関わりの中で、意見を直接取り入れ、一緒に製品を創りあげたことだと話す。

「例えば、学生の授業の理解度・習得度が把握しにくい、という問題がありました。そこで私は実際に大学の講義に参加し、教員や学生から直接話を聞いて、彼らと一緒に考える機会をたくさん設けました。そうしているうちにお互いの思いの部分が共有され、同じ大学を改革する仲間であり、同志であるという感覚になってきたのです。結果として、学習の進捗度を『見える化』して、客観的に認識、把握できるようにするシステムが完成しました。」

今後は導入大学100大学を目指し、全国でのゼミナールや教職員と学生と一体となった研究会を開催し、場作りを通してシステムを進化させていきたいという。

## トライバレー再始動

昨年12月、飯塚市がアメリカ・サニーベール市との友好都市を締結したことで、遅々として進まなかったトライバレー構想が、再び動き始める。サニーベール市はIT産業が集積するシリコンバレーの主要都市であり、飯塚市との青少年交流をベースに、IT関連のビジネスパートナーとしての打診もきている。当初、サニーベール市は他市との提携が有力だったが、飯塚友情ネットワークの縄田理事長とともに正田氏を含め多くの人が力を合わせ、タイミンングと様々な要素が奇跡的に繋がった結果、締結が成功した。

再び動き出したトライバレー構想。その中でハウの果たす役割を正田氏は、次のように話す。「今は大企業関係のシステムに力を入れています。ですが同時に、シリコンバレーとの繋がりを持ちながら世界に

繋がる、それを支える会社でありたいと思っています。人と人が関わるという部分で、飯塚に来れば世界が見えるという人・プロジェクト・資金が活発に流れる仕組み『生態系』を作りたいですね。その中で、共に新しいビジネスを展開しようという若者と新規事業をどんどん立ち上げ、世界に羽ばたく挑戦のシステムを構築していきたいですね。

## 求められるのは、夢を持っている人

長く不況が続いたせいなのか、今は【挑戦】よりも【安定】という思考に学生やその親も陥っている。情報技術の分野においても、大学を卒業後に地元を離れ、都市部の大企業へと就職する学生が多い現状がある。『地元に残って働く』という選択肢はもうないのだろうか。

「今回のサニーベール市との友好都市の締結をきっかけに、大都市・大企業でなくても、新しいビジネスモデルが誕生するチャンスはきっとあるはずですよ。見ていてください、これから飯塚はメチャメチャ面白くなるはずですよ！」

では、これから先、求められる・必要とされる人材は何であろうか。この質問に正田氏の答えは明確だ。それは『夢を持っている人』だ。

「自分の夢はこれだと思える、志を持っている、今は持つていなくてもそうありたいと思う、今ほだけで充分。つまりは夢の実現のために、成長していきたいという思いが大切です。そういう思いを常に持っている人は、見た目や年齢に関係なく若いし、イキイキしていますよね。」

自分がやるべき使命を見出したとき人は全てが変る。それは内面だけでなく、外見すら見違えるという。そういう人材というのは、今の前にいる正田氏のような人

のことを指すのだろうかと感じずにはいられなかった。

\*\*\*\*\*

正田氏の迷いが無い行動と、揺るぎない決断力。その裏にはこんな経験があった。

「ハウインターナショナルは一度、結果をなかなか出せずに危機的な状況になったことがありました。ですが、地元の方々の声、本当に飯塚を変えたいと思って協力して下さる方がいるということ、それが乗り越えさせてくれました。その経験から、今では『アジアのシリコンバレー・ZUKA』を本当に実現しなければならぬ、と自分の使命に思えるようになりました。」

過去の経験が今を活かし、ハウインターナショナルはさらに逞しく、そして強くなった。

「ハウのような企業が飯塚で成長し続けること、それがアジアのシリコンバレー・ZUKAにつながるんです。」と最後に締められた正田氏。

これから飯塚市の発展を牽引する重要なキーパーソンとなることは間違いない。

※1…クラウド型大学向け教育ソリューションediea(エディア)。学生達が学内外で習得した技術・知識・課題をシステムに入力し自己評価として活用。入力内容を見た教員らがコメントを返すことで、学生の目的意識を高める狙いがある。大学に入って途端に目的を見失う学生も少なくない中、意識向上をさせるものとして、全国の大学だけでなく、文部科学省からも注目を集める。全国100大学を目標に、現在28の大学で採用されている。

<http://www.ediea.net/>



**HAW**  
**International Inc.**  
e-ZUKA city Fukuoka Japan